

新会員紹介 小野照夫さん (平成11年10月20日定年)

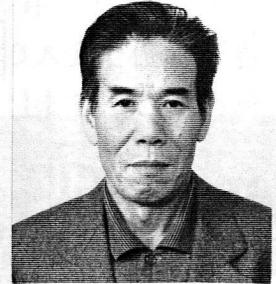
太田市藤久良町20-9 電話 0276-31-4422

平成11年10月20日をもちまして定年退職となり、この度、菱の実会に入会させていただくこととなりますので宜しくお願いいたします。

昭和41年に入社しプレス係、石油ファンヒータ、ピック、基板などの職場を異動して参りました。最後はプレス係で定年を迎え、その間、33年各職場の上司並びに先輩の皆様大変お世話になり感謝の気持ちです。

定年まで健康で来たのも毎日の規則的な生活をしてきたからだと思えます。このリズムを続けて楽しく人生を送りたいと思えます。

今後、先輩の皆様、ご指導をよろしくお願い致します。



田部井朝保さん (平成11年10月20日定年)

太田市宝町750番地 電話 0276-32-2278

平成11年10月20日付けを以て、転籍しておりました菱馬テクニカ(株)を定年退職し、今般、菱の実会諸先輩の皆様方の仲間入りをさせて頂くことになりましたので宜しくお願い申し上げます。

昭和34年入社以来40有余年、菱電機器・群馬製作所(営業、資材関係業務)・住環本大船事務所(総務関係業務)・菱馬テクニカ出向、転籍(サービス、現品管理業務)と長きの間、公私両面に亘って諸先輩方の皆さんの格別なるご指導ご支援を賜り、大過なく今日を無事迎える事が出来たことに対し、この紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。幸いにも健康に恵まれ、数多くの貴重な経験を積まさせて頂き、思い出多き、且つ、充実した会社生活を過ごさせて頂きました。

これからは、新たな気持ちで健康第一に、悔いのない残された人生を少しでも有意義に過ごせればと考えておりますが、まだまだ未熟者でございますので、今後共諸先輩皆様方の更なるご指導ご鞭撻ご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。



会員投稿 『退職前後から「毎日が日曜日」の5年間』

太田市 町原 義太郎

◎過ごし方・趣味のことなど(その1)

58才のときだった。高校時代の友人二人の訃報を続けて聞いたのは。二人ともサラリーマンとして活躍中であつた。一人目のときは「えっ！はやすぎるよ…さぞかし残念だっただろうな」と思ったが、間をおかず二人目の訃報を聞いたとき「うーん??？」と考え込んだ。そして決心した。「人生80年、生きていうちというより元気なうちに何にも縛られないで自由に生きて行くのが幸せではないか。よし60才になったらやりたいことをやっつけていこう」と。で無事に？大過なく？会社生活を卒業し「毎日が日

曜日」に入った。退職に当たり前代未聞？と思う挨拶状を作った。「バンザイ！これからやりたいことをやります…」という内容。「何という挨拶状だ」と思われた方もいらっしゃるかもしれないが、大方の人には肯定的に受け止めていただいたと自画自賛。幾人かの人から返事をいただいたが、その中の二つ、大学の先生から「バンザイ！は早すぎる」すみません 先輩から「自由は不自由だよ」ソフトオリ 会社では期限があったり、約束事があったり、突発事項が起きたり、とにかくぼんやりしている暇はない。これからはボケーツとしていても誰からも文句を言われることはない（女房ドノは別か）。「自由で何にも縛られないで気ままに生きていける。うれしいな！」だが待てよ、会社生活をしているときは、一生懸命に？わき目も振らずに？仕事に励んでいるから、日曜日が楽しいのであって、これが毎日となるとどうなるか？粗大ゴミになりかねない。一体何をやるんだ。これが問題。…「自由は不自由」言い得て妙と思う。やはり趣味を広げること、そして井の中の蛙にならないこと。これが大事なことではないかと思った。

趣味については、生涯の友としているテニスを楽しむのはよいとしてそれだけでは物足りないと思い、「毎日が日曜日」に入ることを決心してから、何かいいものはないかと思案したが（それほど真剣に考えたわけではないが）ちょうど任地が九谷焼きの金沢であったこともあり、通信教育で陶芸を始めた。簡単なようでなかなか難しい、最初に粘土をこねる菊ねりというのがあるが、これがなかなか出来なかった。でも、創造の喜びというかできあがったものをつくづく眺めるのはいいものである。勤務の合間に、コツコツと土いじりを苦勞しながらも楽しみながら無事卒業。この陶芸は帰群してから本当に卒業。今は女房が引き継ぎ熱中している。

井の中の蛙にならないことについてはあまり心配しなかった。

帰群してから（H6/7月上旬）家の内装工事（帰るまでに完成しておこうと計画したが実際に工事ははじまったのは帰群してから…計画通りに行かないのが世の中の習い…）家内外の整備、そのうえ、オーストラリアから孫（2歳）が来たりしてテンヤワヤ。それでもテニスだけは合間を見つけてやっていた。

ようやく落ち着いて待望の「毎日が日曜日」が始まった。

趣味のことについて、書いてみよう。

テニス 今テニスをやっていて本当によかったと思っている（特に夫婦でやっていたことに）、日建に出向した時（昭和48年～51年）いろいろ苦勞したが、その悩みをいやしてくれたのが週末のテニスであった。白球を無心でおっていると悩みも汗とともに吹き飛んでしまう。これがなかったら相当参っていたのではなかろうか。千葉での生活は3年であったが最後の年にはお世話になったクラブの副会長をやらせていただいた。ねんりんピック島根（H7年）では、その当時お世話になった人達が千葉市代表として参加されており20数年ぶりの再会を喜びあった。…こういう出会いもある…

広島でもそうだった。特にワイフがテニスの恩恵にあずかった。単身赴任は別として夫婦で行くとすると（子供達はもう半独立）何か趣味でももっていなければワイフは孤独を味わうことになる。テニスのお陰で仲間がすぐできた。私は週末しかできないがワイフはやろうと思えばいつでもできる。したがって私よりテニスの仲間は多い。今でも何かとお互いに連絡を取り合っているようだ。（群馬菱の実会だより(4)につづく）

(群馬菱の実会だより(3)からつづく)

金沢の時は、もっと深い交流がいまでも続いている。緑陰会というクラブに入れてもらったのだが、そのときの入会のやりとりが面白い。会長:「ビールは好きかね」私:「大好きです そのためテニスをやっているようなものです」会長:「では入れてあげよう」めでたく会員になれたのだが、ビールの件があって会の名前をしばらくの間、緑陰会ではなく緑飲会とばかり思っていた。オッマッ。会員は地元の人と転任者(金沢には各企業の支店が多く転任して来た人を積極的に受け入れている)で構成されているが日曜日が定期の集まり、午前中ゲームをやり昼は宴会?午後からまたゲーム(酔いをさます)、この昼の飲み会がまたすばらしく楽しかった、各界・各層の人(大学教授、名誉教授、病院長、開業医、会社経営者、会社・役人のOB・・昭和天皇の護衛をされていた人もいる・・サラリーマン、転任者etc)が集まっているので話題には事欠かない。また話の中からいろんな企画も出てくる。温泉(北陸にも温泉は多い)一泊テニス・芋煮会(東北出身の方もいる)・歓迎会・送別会等等など。最大の企画は皇居でのテニスであった。帰群してからの話だが、多分この飲み会で決まったのだろうと思っている。皇宮警察から石川県警に出向して来られた方がまた皇宮警察に帰られることになり、皇宮警察対緑陰会の親善試合を皇居でやることになった。旧会員も何人か招待された。私たち夫婦も喜んで参加させてもらった。そして、希有なことが起こった。

折角、皇居でテニスをやるのだから、天皇・皇后両陛下のテニスを垣間見ることができたらいいなと思っていたが、何と両陛下が我々のやっている所へお出ましになるというではないか(旧会員に天皇のご学友がおられ、侍従に前もって連絡をしておられたとのこと)、ゲームを楽しんでいる途中、人品いやしからぬ人(侍従)が現れ何やらご学友と話をされていたが、丁度両陛下がテニスをやられる日だったのだろう。それから間もなくであった。両陛下がお出ましになるという報が入って来たのは。あわててコートにブラシをかけ、椅子を並べ変えお待ちした。やがてお見えになった。懐かしいお顔(テレビ、新聞ではよくお目にかかる)なので「やあーしばらく」と声をかけたくなった。(コレハッ)

両陛下ペアとミックスでゲームをやることになった。第1試合は両陛下ペアの勝ち。こちらのペア(特に会長)はコチコチ、ふだんはあまり見かけないミスを連発(さもありません)。休憩中、もう1試合どうですかとお聞きしたら、明日の予定を確認され、もう1試合やることになった。今度は、ワイフが長老と組んで対戦。最後は天皇のすばらしいストレートでワイフがサイドを抜かれゲームセット。両陛下と握手。(日本人で両陛下と握手した人は少ないのではないかと)後で、ワイフが「陛下にきれいにサイドを抜かれ負けてよかった」と言うので「勝負は勝たなければだめだ」と冗談交じりに言ってやった(ダソク)。

私たちにとって何とも言えないすばらしい夢のような出来事であった。

テニスにも、シルバー向けに公式・非公式とりまぜいろんな企画がある。シニアテニス連盟の全国大会・北関東大会・県や東毛地区の親善試合、まだまだ大会(県・東毛)、全三菱庭球大会(H・I杯などのほかに、120才・130才トーナメントがある)、県民スポーツ祭、シルバースポーツフェスティバル、長野県や栃木県との親善試合…etc。いづれも最優先で参加することにしている。大会にはいつも勝つつもりで出場しているが、世の中は広い、なかなか勝たせてもらえない。勝率5割強といったところか。

勝率と言えばH8年から記録を取っているが、公式戦・お楽しみのゲームを含めて、H8年66.5%、H9年65.5%、H10年61.0%であった（おやおや だんだん悪くなっているではないか）。

勝敗もさることながらこれらの企画には懇親会がセットされているのが多く、それがまた県外の人達との交流もでき楽しいのである。ねんりんピックにもテニス部門がある。今年は福井で開催されるが、ワイフと一緒に参加できることになっている。ねんりんピックでは開催地の皆様に温かく迎えられ感激度も一入である。

不定期には昔の仲間との旧交を温めるため、仙台や金沢にも何回か足を運んでいる。来年2月にはグアムでの親善試合に出掛けるつもりでいる。

日常的には、太田レディス（コーチ役週一回。今世の中のレディスは元気）・木曜会（前橋で週一回）・又、土曜か日曜には若い人達とともに汗を流している。

まさに 我が人生において テニス万歳！ である。（来月号につづく）



全三菱庭球大会 平成9年10月4日

同期ペア山本成一郎氏(中央)、馬淵公作氏(左側)、本人(右側)

トピックス

10月10日付け上毛新聞によりますと、10月9日から福井県武生市で開催された『ねんりんピック99福井』に群馬県からテニス部門で町原義太郎さんご夫妻が出場されたことが、奥さんの『“ゴルフウイダー”ならぬ“テニスウイダー”になってはトラケットを降り始め、最近では週三回、夫婦で近くのコートに通うのが楽しみ』というコメント入りで紹介されていました。

会員投稿 『退職前後から「毎日が日曜日」の5年間』 その2

太田市 町原 義太郎

生きがいを求めてというほど大袈裟ではないが、趣味を広げるため、通信教育でいろいろのものに挑戦した。まず最初に…

折り紙 動機の一つは孫に教えてやろうということ。やってみるとなかなか奥深いものがある。折り方が図解入りで説明されているが、簡単なものでもああでもない、こうでもないと苦勞した。考え出した先人の知恵、あるいは今でも創作に励んでおられる先生たちの頭の構造はどうなっているのだろうと、驚嘆することしきり。ついで…

鎌倉彫 NHK学園の通信教育の資料を送ってもらい、よさそうだと思って受講することにした。今は、ヒマができると（ヒマを見つけて）楽しんでいる。

鎌倉彫とは…平安時代後期、各地に阿弥陀堂が建てられた（平等院鳳凰堂・中尊寺金色堂など）。その堂内の天井や壁、仏像を安置する須弥壇などには、宝相華唐草などの華麗な装飾が施されているのが特徴で、これらの彫刻が鎌倉彫の源流の一つ。〔注：宝相華（極楽浄土に咲くと言う架空の花）、唐草（植物のつるのように切れ目なく連続している文様の総称）〕その後、鎌倉が日本の政治の中心になったとき、鎌倉に大きな禅寺がつつぎに建てられた（覚園寺・建長寺・円覚寺など）。それらの要所に施された装飾は、宝相華唐草にかわって獅子や牡丹が多く使われている。室町時代に入り中国（元の末期から明の始め頃）との交流が盛んになり、俱利とよばれる彫漆工芸品などもたくさん渡来し〔注：俱利（グリグリと回転する感じの連続模様）、彫漆（漆を数十回塗り重ねて厚い層を作りそれに彫刻するもの）〕当時の仏師たちに強い刺激を与えた。良質の木材に恵まれた我が国では、時間の掛かる彫漆のかわりに木地に彫刻してそのうえに漆を塗り彫漆と同じ効果を上げること考えた。安土・桃山時代になるとしだいに中国の彫漆の影響を抜け出し、その頃から鎌倉彫という呼び方が定着したようである。

鎌倉彫の木地は、昔はヒノキ、カエデ、ウメなど緻密で堅い木が用いられていたが、明治ごろからイチヨウが多く使われるようになった。イチヨウは木質に粘りもあって狂いが少なくよい材料なのだから近年は入手が難しくなり、今は北海道のカツラが使われている。

彫刻刀は種類を大別すると、小刀、平刀、丸刀の3種類だが、それぞれの大小に変形のものまで含めるとたくさんの種類になる（今、わたしの使っているのは9種類）。何と言っても切れ味が決め手なので研ぎが大切。

塗りは、本来は漆塗りということになっているが、技術的にも難しく大変なので今はやっていない（先生に預けて塗ってもらうこともできるが塗り代も高い）。代わりに柿渋を使った塗りをやっている。これも塗ってから時間が経つと実に渋いい色になってくる。今はこれで満足している。

さて、実際の彫りだが、線彫り というのが鎌倉彫の基本で断面がV字型になる線を小刀で彫ることをいい、送り刀（刀の背を左手の親指で送って行く彫り方）と引き刀（刀を手前に引くようにして彫る刀法）とあり、慣れてくるとクルクルと螺旋状に木屑が出てくる。これは楽しいものだが、最初はどううまくできず、放り投げようかと思ったこともあった。手の動き・力加減など微妙なものがあるのだろうが、やはり繰り返す繰り返す

やること、慣れるというのが上達、そして楽しみの基本だろう。

前述したようにヒマがあると彫っているが、今はできあがっている図案を図つけし彫っているのがほとんどで、課題は自分で作図したものを彫ること、つまり自分のオリジナル作品を作りたいということである(オリジナル作品も何個かは彫っているが)。それにはデッサン力、図案化力、こういったものを身につける必要がある。と思っている。

(来月号につづく)

◆ おしらせ ◆

1. 1月の囲碁愛好会

◎例会 : 1月17日(月) 9:30~ ◎会場 : 体育館 余暇開発室

◎初心者講習会 : 1月12日(水) 9:30~ ◎会場 : 体育館 余暇開発室

2. 1月グラウンドゴルフ月例会

◎日時 : 1月24日(月) 9:30~ ◎会場 : 利根グラウンドゴルフ場

3. 2月のカラオケ月例会

◎日時 : 2月7日(月) 17:00~ ◎会場 : 睦荘 YOU遊ホール

◎申込 : 愛好会役員(斉藤慶蔵さん : Tel 0276-52-1846)まで

4. 次回の幹事会・編集委員会(会場 : 組合会議室)

◎編集委員会 1月24日(月) 11:30~

◎幹事会 2月 7日(月) 16:00~

1/25.26
9:00

編集後記 ◎会員の皆様、あけましておめでとうございます。20世紀最後の年、西暦2000年という節目の年を迎えました。21世紀に向けますます、ご健勝でありますよう、ご祈念申し上げます。

◎景気も気候も不順です、お互いに健康に留意し、元気で今年を乗り切り、21世紀が迎えられるよう頑張りましょう。

◎昨年は無残な殺人事件、リストラなど暗いニュースが飛び交いましたが、今年はいちばん明るい世の中になってほしいものです。

◎コンピューター関係のY2K(2000年問題)も無難に過ぎ、安堵いたしました。

◎群馬菱の実会が益々発展できるよう、幹事一同頑張りますので、皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。(増田 記)

発行

発行責任者 斉藤 慶蔵

三菱電機労働組合群馬支部

2000-1-11 No.81

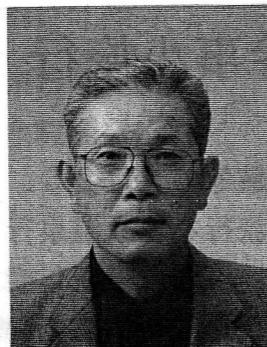
編集「菱の実会だより」編集委員会

Tel 0276-52-3874

新会員紹介

笠原二郎さん(平成12年1月18日定年)

藤岡市岡之郷883-3 電話 0274-42-3776



私は、昭和42年に三菱電機藤岡工場の設立にともない、入社をいたしました。その間、先輩の指導のもとで、33年間と長き日々を送り、元気で定年を迎えることが出来た事を感謝いたします。

菱の実会に入会後も皆様といっしょに、これからの人生を楽しく送りたいと思います、よろしくお願い致します。

会員投稿 『退職前後から「毎日が日曜日」の5年間』 その3

太田市 町原 義太郎

手品 も通信教育で始めた。人に「アッ！」とか「オー！」とか言わせるのは楽しいではないか(まだそれほど上達しているとは思っていないが)、それにカラオケは絶対やらない主義なので、宴席での話題作りにもなるかと思って始めた。「手品をやっている」と言うと「器用だね」という返事が返ってくるが、むしろ不器用な人のほうが上達ははやいと言う。手品には当然タネがある。タネを見破られぬよう演技をする必要があるが、器用な人は器用さでごまかしてしまいがちである。不器用な人は何とかものにしようと繰り返し練習するからという理由。手品をやるに当たって、その場での演技は1回だけ(同じものは繰り返さない)・タネは絶対教えない。というのが幾つかある原則の中の鉄則。やっていると失敗も含めていろんなことがある(飲んでやることが多いので失敗も多い)ある時、白紙を1万円札に変えるのをやったら小学校1年生くらいの女の子が千円札をもって来て「これを1万円札にして」と言って来た。一寸ビックリしたが「この手品は1回しかできないの」とか何とか言ってお引き取り願った事もあった。手品もまた楽しからずや。

園芸 我が家にも、ネコのヒタイではないノミのヒタイ(蚤にヒタイはあるか?)程の庭があり植木もある。毎年庭師さんに頼んで整姿してもらっていたが、ある年その庭師さんがケガで来れないことがあった時、自分で、これでいいのかなと疑問を抱きながら適当に刈り込みをやってみた。翌年、ツツジ・サツキはほとんど花が咲かなかったし、ザクロは実をつけなかった。やはりやり方がおかしかったのだろう。そういうことが念頭にあったのか、あるとき園芸管理士の資格が取れる通信教育の広告が目に入り資料を取り寄せてみるとますますよさそうなので受講することにした。庭園の歴史・庭園の在り方・樹木の特徴、手入れの仕方・病虫害対策・年間管理・付属物のことなど、盛り沢山の内容があったが、ひとつ残念なことがあった。それは…6回の課題解答を提出する必要があるのだが、5回まで100点満点(最初に、テキストを見ずに答えを出してみると半分以上は間違っている、その後でテキストをよく見て満点にした)最終回も満点を取れると思ったのだが、ケアレスミスをしていて98点。残念!満点を取ることが目

的ではないが、とにかく無事終了し、日本園芸協会・園芸管理士の資格を認定された。この勉強を始めてから、車で出掛ける道中など、よその家の庭や庭木などがいやでも目につくようになり、一人で頷いたりなどしている。また、前から有名な庭園などを見ることが好きだったが、ナルホドと納得したような顔で拝観できるようになった。

日本園芸協会では有料で、園芸管理士の表札や看板を作ってくれるのだが、これはいらない。庭園監理士の資格をバックにして（大きく出たな）、庭木の手入れや庭作りの相談に応じます。と言いたい所だが、自分の庭木なら変な格好になったり、枯れたりしてもシマッタですむが、他人様ではそうは行かないので、我が家の庭の管理に止めている（消極的だね、もっと自信をもったらどうだ）。

付記 ①カエデが枯れた。質問した所、カイガラムシが幹に侵入したのでろうという回答。よく見ておれば分かったはず。切り倒したら虫食いの跡が歴然。

②ツツジなど花木には、花芽分化期というのがあり（樹種によって時期は異なる。その後のせん定では花は咲かない。）

③ザクロ：結果枝の切り返しせん定は不可。丸坊主にするほど切ってはいけない。（付記に書いたようなことは常識かも知れないが、私は知らなかった）

井の中の蛙にならないためには、いろんな人との交流が必要であろうと考えている。そのため、行事のお誘いなどがあつたときなどには出来るだけ参加するようにしている。中学・高校・大学の同窓会・会社の同期会はほとんど皆出席。また、勤務中いろんなところを渡り歩いたので、幾つかのOB会（菱の実・MHK社友会・SCOB会・在京名電OB会）に入れてもらっているが、これも同様。ただ、テニスのスケジュールとよくぶつかることがあるが、この時は迷う、どちらかというとなテニスの方が優先になる。

旅行も見聞を広げるによいチャンスだ。高校時代の友人5人（群馬・東京・京都・延岡に在住）と毎年、年に1回会うことにしているので七夕会と名づけた2泊3日の旅行をもう10年以上続けている。今年は棚田の研究をしている人が幹事だったので、棚田の見学をおり込んで紀伊に行つて来た。海外旅行にも毎年1回は出掛けることにしている。今年は昨年末からシドニー郊外に1ヶ月程滞在した。海外旅行に行くにも、どうしようかと迷わず「よし、行こう」とパツと決めるのがよいようだ。ご承知の方も多いと思うが知らない損をしていることが多々ある。例えば、割安航空券・航空券の早割・JRのジパング倶楽部…etc。なお、海外での支払いはカードのほうがレートは有利なようだ。読書もよい。晴耕雨読ではないが、図書館では2週間に5冊貸してくれるので、大体このペースで楽しんでいる（推理小説を中心とした軽いものが多いが）。

また、地域社会への貢献というカッコよすぎるが、区の生涯学習奨励委員を頼まれ引き受けている。夏祭りには幣束という役をやつた。この辺のところは頼まれたら断らないという、ある意味では受け身の姿勢であることに反省がない訳ではない。

クドクドとつまらないことを書いてきたが、元気であることこれが一番だと思う。そして、いろんなことに興味をもち、どうしようかと迷ったらやることが大事なことでなかろうか。